

アイ・オー・データ機器が医療機関の感染症対策を支援

横浜市医師会に「CO2濃度センサー」の無償提供を開始

～室内環境を可視化して新型コロナウイルスやインフルエンザの感染対策を～

株式会社アイ・オー・データ機器(本社:石川県金沢市、代表取締役社長:濱田 尚則、以下、アイ・オー・データ)は、医療機関の感染症対策支援を目的として、横浜市医師会にCO2濃度センサー「UD-CO2S」844台を無償で提供いたしました。

室内環境を可視化することができるCO2濃度センサー「UD-CO2S」を会員医療機関に設置して感染症対策に活用いただくことで、皆さまの感染リスクを減らすことを目指し、同時に、皆さまの健康を守る医療機関の活動を支援いたします。

- 目的と狙い
- CO2濃度センサー「UD-CO2S」について
- 横浜市医師会について



Yokohama Medical Association
横浜市医師会

進化する明日へ Continue thinking
I-O DATA

● 目的と狙い

今冬は新型コロナウイルスと季節性インフルエンザが同時流行しており、さらなる感染拡大時には各医療機関への負荷が高まることが予想されています。CO2濃度センサー「UD-CO2S」の開発にも携わっている電気通信大学 石垣 陽 特任准教授の最新研究によると、感染防止には直接飛沫がかからないようにすることと、空気中に長時間漂うマイクロ飛沫を十分に換気できるようにすることの両立が必要とのことです。

しかし、換気状態は人間には知覚できないため、CO2センサーを使って適切に換気できているか可視化することが重要です。なお、厚生労働省からは、感染症対策としてCO2濃度1000ppm以下の維持、適度な保湿(湿度40%以上)^(※1)が示されており、室内のCO2濃度に応じて適切に換気することが効果的とされています。

※1: 厚生労働省「冬場における「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法」より https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15102.html

今回、横浜医師会に提供したCO2濃度センサー「UD-CO2S」は、CO2濃度や温度、湿度を可視化することができ、会員医療機関に感染症対策の一つとして活用いただくことで、多くの方の感染リスクを減らすことができます。複数人が長時間滞在する病院の待合室などに「UD-CO2S」を設置すれば、可視化された室内環境に合わせて適切なタイミングで換気することで来院者の感染リスクを減少させ、安心感を与えることができます。

このように感染症対策の一角をアイ・オー・データの商品が担うことで医療機関の負担を減らし、医療活動に専念できる環境となることを支援いたします。

アイ・オー・データは、今後も今までに得た知見や技術、活動を通じて、医療機関の環境整備に貢献する取り組みを行って参ります。

■横浜市医師会からのコメント

この度は御社の「CO2濃度センサー」を無償提供いただき、誠に感謝申し上げます。

会員医療機関の感染症対策の一つとして、大いに活用させていただきます。ありがとうございました。

●CO2濃度センサー「UD-CO2S」について

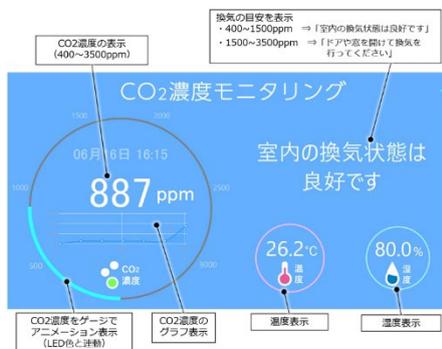
CO2濃度センサー「UD-CO2S」^(※2)は、本体のLEDランプとWindowsアプリ「CO2換気モニター」によって、室内のCO2濃度を確認できるだけでなく室内の温度、湿度もお知らせする高精度センサーです。Windowsパソコンを設置する場所がない場合でも、単体でCO2濃度を確認することも可能で、自宅の部屋や飲食店、会議室、病院の待合室など、閉め切った室内や多くの方が長時間滞在する場所における感染症対策や3蜜の回避、眠気や集中力の低下にご活用いただくことができます。



厚生労働省が「扱いやすい二酸化炭素測定器」として紹介しているNDIR（非分散型赤外線吸収法）方式の中でも高精度に安定した測定ができるとされている2波長方式のSENSIRION社製センサーを搭載しておりますので、安心してお使いいただけます。また、温度・湿度をもとに測定値を自動補正するほか、外気を基準とした手動校正機能と、センサーのみで校正を行う自動校正機能を備えております。

※2:「UD-CO2S」は経済産業省が告示している「二酸化炭素濃度測定器の選定等に関するガイドライン」(<https://www.meti.go.jp/covid-19/guideline.pdf>)に準拠したCO2センサーです。

CO2濃度センサー「UD-CO2S」商品詳細: <https://www.iodata.jp/product/tsushin/iot/ud-co2s/>



点灯イメージ	CO2濃度[ppm]	空気の状態	対策・説明
	1,000以下	良好	この状態を保つ
	1,000-1,500	やや良い	受け入れられる限度
	1,500-2,500	悪い	換気するか、 部屋の使用を控える
	2,500-3,500	非常に悪い	
	3,500超	極めて悪い	

●横浜市医師会について

横浜市医師会は市内18の区医師会会員と横浜市立大学の大学区医師会会員から構成され、その数は4,100名を数え全国でも有数の規模を誇ります。運営する桜木町・北部・南西部の3つの夜間急病センター、18区医師会が運営している各区休日急患診療所により、地域の休日・夜間一次救急診療を担い、各種検診・予防接種・健康づくりなども含め、市民の健康と福祉を守るために日夜尽力しています。

横浜市医師会Webサイト: <https://www.yokohama.kanagawa.med.or.jp/>

※ 本リリースに記載されている会社名、商品名は、各社の登録商標または商標です。

※ 本リリースに記載の仕様は、変更されることがあります。

【本リリースに関するマスコミ問い合わせ窓口】

株式会社アイ・オー・データ機器
事業本部 企画開発部 販売促進課
担当: 澤田
TEL: 090-1316-6910

【会社概要】

株式会社アイ・オー・データ機器
代表取締役社長: 濱田 尚則
本社: 石川県金沢市
資本金: 35 億 8,807 万円
ホームページ: <https://www.iodata.jp/>